

# 典礼のしおり

O Domingo N.º 18

PANIB 発行 26-04-2026

復活節 第四主日 世界召命祈願の日

私<sup>わたし</sup>たちを幸<sup>あわ</sup>せの道<sup>みち</sup>に導<sup>み</sup>いてくださる優<sup>よ</sup>れた牧<sup>ぼくしや</sup>者<sup>しや</sup>イエスを取<sup>と</sup>り囲<sup>かこ</sup>んで、私<sup>わたし</sup>たちは此<sup>こ</sup>処<sup>こ</sup>に集<sup>あつ</sup>まっています。彼<sup>かれ</sup>は私<sup>わたし</sup>たちを知<sup>し</sup>っており、私<sup>わたし</sup>たちのためにご自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の命<sup>いのち</sup>を捧<sup>た</sup>げ、私<sup>わたし</sup>たちが豊<sup>ゆた</sup>かな命<sup>いのち</sup>を得<sup>え</sup>るために私<sup>わたし</sup>たちを救<sup>すく</sup>ってくださいます。

今日<sup>きょう</sup>は司<sup>し</sup>祭<sup>さい</sup>、修<sup>しゅう</sup>道<sup>どう</sup>者<sup>しや</sup>の召<sup>しよめい</sup>命<sup>めい</sup>のために祈<sup>いの</sup>る日<sup>ひ</sup>、また、召<sup>め</sup>された全<sup>すべ</sup>ての奉<sup>ほう</sup>仕<sup>し</sup>者<sup>しや</sup>のため<sup>ため</sup>に祈<sup>いの</sup>りましよう。

入<sup>い</sup>祭<sup>さい</sup>唱<sup>しょう</sup>

天<sup>あま</sup>は神<sup>かみ</sup>のことばによつて造<sup>つく</sup>られ、地<sup>ち</sup>には神<sup>かみ</sup>のいつくしみ<sup>しみ</sup>が満<sup>み</sup>ちている。アレルヤ。

栄<sup>えい</sup>光<sup>こう</sup>の賛<sup>さん</sup>歌<sup>か</sup>

集<sup>しゅう</sup>会<sup>かい</sup>祈<sup>いの</sup>願<sup>げん</sup>

全<sup>ぜん</sup>能<sup>のう</sup>永<sup>えい</sup>遠<sup>えん</sup>の神<sup>かみ</sup>よ、よ<sup>よ</sup>い牧<sup>ぼくしや</sup>者<sup>しや</sup>キリ<sup>きり</sup>ス<sup>す</sup>トは、わ<sup>わ</sup>たし<sup>た</sup>し<sup>し</sup>ち<sup>ち</sup>の

ためにいのちをささげてくださいました。キリストの声<sup>こゑ</sup>に従<sup>したが</sup>うわ<sup>わ</sup>たし<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>があなた<sup>あなた</sup>の国<sup>くに</sup>に導<sup>み</sup>かれ、聖<sup>せい</sup>人<sup>にん</sup>ととも<sup>とも</sup>に喜<sup>よろこ</sup>び<sup>び</sup>を分<sup>わか</sup>かつこと<sup>こと</sup>がで<sup>で</sup>き<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>よう<sup>よう</sup>に。聖<sup>せい</sup>霊<sup>れい</sup>の交<sup>まじ</sup>わり<sup>わり</sup>の中<sup>なか</sup>で、あ<sup>あ</sup>なた<sup>た</sup>ととも<sup>とも</sup>に世<sup>よ</sup>々に生<sup>な</sup>き、支<sup>し</sup>配<sup>はい</sup>してお<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>れる御<sup>ご</sup>子<sup>こ</sup>、わ<sup>わ</sup>たし<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>の主<sup>しゆ</sup>イエ<sup>い</sup>ス<sup>す</sup>・キ<sup>き</sup>リ<sup>り</sup>ス<sup>す</sup>トによ<sup>よ</sup>つて。アー<sup>あ</sup>ー<sup>あ</sup>メン。

## ※ 聖書朗読の解説

神<sup>かみ</sup>のみ言<sup>ことば</sup>葉<sup>は</sup>は私<sup>わたし</sup>たち<sup>たち</sup>を回<sup>かへ</sup>心<sup>しん</sup>に招<sup>まね</sup>き、私<sup>わたし</sup>たち<sup>たち</sup>の命<sup>いのち</sup>の本<sup>ほん</sup>当<sup>たう</sup>の牧<sup>ぼくしや</sup>者<sup>しや</sup>はイエ<sup>い</sup>ス<sup>す</sup>・キ<sup>き</sup>リ<sup>り</sup>ス<sup>す</sup>トで<sup>で</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>知<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>す。彼<sup>かれ</sup>は豊<sup>ゆた</sup>かな命<sup>いのち</sup>に近<sup>ちか</sup>づく門<sup>もん</sup>です。

使<sup>し</sup>徒<sup>と</sup>たち<sup>ち</sup>の宣<sup>せん</sup>教<sup>きょう</sup>（使<sup>し</sup>徒<sup>と</sup>言<sup>ごん</sup>行<sup>ぎやう</sup>録<sup>ろく</sup>2・4a、36-41）

「五<sup>ご</sup>旬<sup>じゆん</sup>祭<sup>さい</sup>の日<sup>ひ</sup>」。ペ<sup>ペ</sup>ト<sup>ト</sup>ロ<sup>ロ</sup>は十<sup>じゅう</sup>一<sup>いち</sup>人<sup>にん</sup>と共<sup>とも</sup>に立<sup>た</sup>つて、声<sup>こゑ</sup>を張<sup>は</sup>り上<sup>あ</sup>げ、話<sup>はな</sup>した。「イ<sup>い</sup>ス<sup>す</sup>ラ<sup>ら</sup>エ<sup>え</sup>ルの全<sup>ぜん</sup>家<sup>か</sup>は、は<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>き<sup>き</sup>り<sup>り</sup>知<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>て<sup>て</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>ん。あ<sup>あ</sup>な<sup>な</sup>た<sup>た</sup>が<sup>が</sup>た<sup>た</sup>が<sup>が</sup>十<sup>じゅう</sup>字<sup>じ</sup>架<sup>か</sup>につ<sup>つ</sup>け<sup>け</sup>て<sup>て</sup>殺<sup>ころ</sup>した<sup>した</sup>イ<sup>い</sup>エ<sup>え</sup>ス<sup>す</sup>を、神<sup>かみ</sup>は主<sup>しゆ</sup>とし、ま<sup>ま</sup>た<sup>た</sup>メ<sup>メ</sup>シ<sup>し</sup>ア<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>さ<sup>さ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>です。」

人<sup>ひと</sup>々<sup>々</sup>はこ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>聞<sup>き</sup>いて大<sup>おお</sup>いに心<sup>こゝろ</sup>を打<sup>う</sup>た<sup>た</sup>れ、ペ<sup>ペ</sup>ト<sup>ト</sup>ロ<sup>ロ</sup>と<sup>と</sup>ほ<sup>ほ</sup>か<sup>か</sup>の使<sup>し</sup>徒<sup>と</sup>たち<sup>ち</sup>に、「兄<sup>きょう</sup>弟<sup>てい</sup>たち<sup>ち</sup>、わ<sup>わ</sup>たし<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>はど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>した<sup>した</sup>ら<sup>ら</sup>よ<sup>よ</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>です<sup>す</sup>か」と言<sup>い</sup>った。す<sup>す</sup>ると、ペ<sup>ペ</sup>ト<sup>ト</sup>ロ<sup>ロ</sup>は彼<sup>かれ</sup>ら<sup>ら</sup>に

言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。

答唱詩編 〇典 123〇1 〇2 〇3 〇4

(詩編 23・2+3、4、5、6) (詩編 23)

全・主はわれらの牧者、わたしは乏しいことがない。

神はわたしを緑のまきばに伏させ、

いこいの水辺に伴われる。

神はわたしを生き返らせ、

いつくしみによって正しい道に導かれる。

全・主はわれらの牧者、わたしは乏しいことがない。

たとえ死の陰の谷を歩んでも、

わたしはわざわいを恐れない。

あなたがわたしとともにおられ、

その鞭と杖はわたしを守る

全・主はわれらの牧者、わたしは乏しいことがない。

あなたははむかう者の前で、

わたしのために会食を整え、

わたしの頭に油を注ぎ、

わたしの杯を満たされる。

全・主はわれらの牧者、わたしは乏しいことがない。

神の恵みといつくしみに

生涯伴われ、

わたしはとこしえに

神の家に生きる。

全・主はわれらの牧者、わたしは乏しいことがない。

使徒。ペトロの手紙(一)ペトロ 2・20b(25)

「愛する皆さん、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、これこそ神の御心に適うことです。

あなたがたが召されたのはこのためです。というのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです。

「この方は、罪を犯したことがなく、その口には偽りがなかった。」

ののしられてもののしり返さず、苦しめられても人を脅さず、正しくお裁きになる方にお任せになりました。そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に對して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻って来たのです。

アレルヤ唱

アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ。

わたしはよい牧者。わたしは羊を知り、羊はわたしを知っている。

アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ。

ヨハネによる福音（ヨハネ 10・1-10）

「そのとき、イエスは言われた。」「はつきり言っておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。門から入る者が羊飼である。門番は羊飼いは門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立つて行く。羊はその声を知っているので、ついて行く。しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。」  
イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった。

イエスはまた言われた。「はつきり言っておく。わたしは羊の門である。わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。わたしは門である。わたしを通って入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つめる。盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。」

## 信仰宣言

### 共同祈願

司・兄弟姉妹の皆さん、今日は世界召命祈願の日です。

善き牧者であるイエスに神の民を導く善き聖なる牧者を祈り求めましょう。

1. 教会が常に、福音の道を伝える善き羊飼いの声によつて導かれますように。主に祈りましょう。

全・主よ、あなたの民を守り導いてください。

2. 聖職者たちが、神の御国の発展のために積極的な活動家となるために不可欠な霊的支援を養うことができますように、主に祈りましょう。

全・主よ、あなたの民を守り導いてください。

3. キリスト信者はイエス・キリストに従うために、人類の救済への入り口として彼が示した教えに常に注意して歩みますように、主に祈りましょう。

全・主よ、あなたの民を守り導いてください。

4. 私たちの共同体がこの世の偽りの誘惑に惑わされることなく、唯一の確かな導き手である善き羊飼いに確信を持つて従うことができますように。

全・主よ、あなたの民を守り導いてください。

司・それでは、私たちは召命のための祈りを一緒に

祈りましょう。

全・あなたと共に歩むよう使徒たちを召された私たちが

の牧者、イエスは、これからも私たちの家族や共同体を訪れ、人々のため、神のため、そして全人類の利益のために、信徒使徒として又、司祭として、修道者としてあなたに従う寛大な心を呼び覚ましてください

ますように、主にいのりましょう。

司・永遠に生き支配しておられる主キリストによつて。

全・アーメン。

### 奉納祈願

聖なる父よ、主の過越の神秘に感謝をこめてあずかります。

この救いの力がいつもわたしたちのうちに働き、永遠の喜びの源となりますように。わたしたちの主イエス・キリストによつて。アーメン。

### 拝領祈願

すべてを治められる父よ、あなたの民を牧し、養ってください。御ひとり子の血によつてあがなわれたわた

したちが、永遠の牧場に入ることができるよう。わたしたちの主イエス・キリストによつて。アーメン。